

お釈迦様の蓮を咲かす冒険③

今後の活動編

生蓮寺住職・生命科学博士・東京大学
先端科学技術研究センター連携研究員 高畑 公紀

目的

「お釈迦様の蓮を咲かす冒険」とは、お釈迦様が生きておられた時代に咲いていた蓮を再び咲かせる事を目指しています。今年の二月九日からインド祇園精舎（一週間）とネパール・ルンビニとティラウラコット遺跡（二週間）において、お釈迦様の時代に咲いていた蓮の種を発掘する冒

険旅行を行いました。全三回で、今回は最終回、今後の活動編を報告します。

世代を越えた信頼

今回の冒険旅行は、多くの方々の尽力によって成し遂げることができました。心から感謝申し上げます。インドチームでは、岩崎先生の旧知であるラオ博士が設立された地質調査会社ナガディ・コンサルタントを中心に、様々なご協力をいただきました。高畑のため現場には出られなかったラオ博士に代わり、息子様のサントッシュ博士が様々な手続きを迅速かつ丁寧



ルンビニの運河。ここを蓮で埋め尽くしたい



マヘンドラ氏宅での夕食会。左手前がマヘンドラ氏、右手前が筆者、その左が村上師

に取ってくださり、大変助かりました。私一人では到底成し遂げることができなかった今回の冒険旅行を、岩崎先生が長年培ってきた信頼のお陰で実現することができたと感じています。岩崎先生には、ただただ感謝の気

持ちでいっぱい입니다。ネパールチームでは、村上僧正に現地での滞在や発掘に関する様々なご協力をいただきました。村上僧正のお父様が設立されたネパール立正院シャンティハルを拠点に活動することができ、大変助かりました。発掘許可申請には、立正院シャンティハルの総代であり実業家でもあるマヘンドラ氏のご尽力がありました。マヘンドラ氏のご家族には、滞在中の温かいおもてなしをいただき、心身ともにリフレッシュすることができました。村上僧正父子の世代を越えた信頼関係があったからこそ、今回の発掘が実現できたと思うています。

村上僧正には、心から感謝申し上げます。また私の家族にも感謝しなければいけません。二歳の娘と七歳の息子をほったらかして二週間もお寺を空けました。その間の子どもは面倒、お寺の運営ができたのも家族の協力があったからです。今回の冒険旅行では、世代を越えた多くの方々のご尽力によって、貴重な経験をさせていただくとともに、多くの学びを得ることができました。お釈迦様時代の蓮の種を発掘することはできませんでしたが、この無念を晴らすべく、

規模を拡大して発掘

前述にあるようにインド・祇園精舎、ネパール・ルンビニとティラウラコット遺跡でお釈迦様が生きておられた時代の蓮の種の発掘を試みましたが、出土には至りませんでした。今後の計画は発掘の規模をもっと大きくしたいと考えています。今回は直径7cm、深さ30cmまで掘り進めまし

入定断想 ④

弘昭寺住職 近藤 堯寛

令和16年奉修
弘法大師御入定
1200年御遠忌

入定の準備

高野山に永遠に身を留めることが『空海僧都伝』に記載されている。この入定の論点の根拠は、『御遺告』にある。

すなわち、「天長九年十一月十二日より深く殺味を厭い、専ら坐禅を好む。皆これ、令法久住の勝計ならびに末世の弟子門徒等の為なり」。

あるいは、「吾れ入滅せんと擬するは、今年三月二十一日寅の刻なり。もろもろの弟子等、悲泣することなかれ」とある。

た。深さは問題ありませんが、発掘する範囲が狭いです。確率論の問題で、直径7cmの円の中にたまたま蓮の種が入る確率は少ないです。畳二畳分程度の範囲を発掘すれば蓮の種は出土すると考えています。こうなるとかなり大掛かりになり、重機等も必要になってきます。一番の問題は何と言っても湧き出してくる水対策です。湖や池を掘削するので、少し掘れば水が噴出してきます。かといって諦めたくはないので、なんとか準備を進めて畳二畳分の範囲を発掘するべく計画を練っています。

ルンビニの運河を蓮で埋め尽くしたい。

今回初めて、お釈迦様が生まれになったルンビニを訪れました。ルンビニは日本の建築家として初めて世界に認められた故丹下健三先生のマスタープランによって造成が進んでいます。その中でルンビニの中心を南北に運河が流れています。この運河の両脇に蓮を植えて、蓮の回廊を作りたいと思ひ立ちました。本来でしたらお釈迦様が生きてた」と述べる。

寺河俊海師は、「いよいよ入定の期が一週間後にせまったことを宣言。二十五ヶ条読上。香水にて清め、定室へ。飲食を断つ。大日如来の定印、弥勒菩薩の三昧。弟子らも昼夜ご真言を唱える。承和二年三月二十一日寅の刻に息が止まる。おん年六十二歳。四十九日の追善供養。五十日目夕方に奥の院霊窟に納める」(『実演法話集成』P775趣旨)。

岩本為雄師は、「大師は老境に入って自分の先途を自覚し、社会上なすべき道を示して軌道にのせ、弟子たちの教育、ご自分は禅定に親しんで、弥勒出世の暁を期し、余生を尊く生きられた」(『実演法話集成』P98)。(名古屋市瑞穂区 金龍寺)